令和 8 年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（学校・地域社会連携型公演）

実施報告書（公開版）

福崎町エルデホール公演「何かようかい〜つながるあそび〜」

2026 年 11 月 5 日 公開版 第 2 版（初版 10 月 13 日、10 月 30 日 公開版）　特定非営利活動法人 国際文化交流促進協会カルティベイト（公演団体）

2026 年 10 月 7 日（水）、兵庫県福崎町エルデホールで 3 公演を実施し、福崎町立の小学校 4 校と中学校 2 校、計 6 校の児童生徒が鑑賞した。3 公演とも予定どおり終えた。

3 公演	6 校	883 人	約 60 分
1 日で実施	町立小中学校の全校	参加者総数（実数）	各回の上演時間

※人数は申請者（福崎町）の実施報告（2026 年 11 月 5 日）による当日の参加実数（児童生徒 804 人・教員 79 人）。初版および 10 月 30 日版に記載した参加予定数 843 人から差し替えた。本報告は公演団体が自主的に作成した公開版であり、文化庁事務局への正式な実施報告は申請者が所定の様式で行う。

本報告の要点

- **実施：** 町立小中学校 6 校すべてが参加し、1 日 3 公演を予定どおり完了した。
- **反応：** 3 校が学校ホームページで公開。小学校・中学校とも「大興奮の 1 時間」と記し、生徒の感想には「めっちゃ叫びました」「できないものにも挑戦していきたい」の言葉。
- **体制：** 町が申請し、町教育委員会が学校と会場を、公演団体が制作と舞台を担当した。
- **今後：** 参加実数を確定し反映した（11 月 5 日）。アンケートは回収後に追補する。本作は令和 9 年度の学校巡回公演に応募済み。

6校すべてが参加、3校が当日の様子をホームページで公開

学校別の参加実数（児童生徒・2026年11月5日 福崎町教育委員会報告）と、学校ホームページの掲載状況（10月9日時点）



図 1　学校別の参加実数（児童生徒）とホームページ掲載状況（掲載状況は 2026 年 10 月 9 日時点）

1　事業概要

事業名	令和 8 年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（学校・地域社会連携型公演）　※旧 文化施設等活用公演
公演名	何かようかい〜つながるあそび〜
実施日	2026 年 10 月 7 日（水）3 公演（前日 6 日に仕込み・場当たり・ゲネプロ）
会場	福崎町エルデホール（兵庫県神崎郡福崎町）
対象	福崎町立の小学校 4 校（5・6 年生）と中学校 2 校、計 6 校。福崎東中学校は全校生徒が参加
主催	文化庁
申請者	福崎町（町長 尾﨑吉晴）
学校・会場調整	福崎町教育委員会 学校教育課、社会教育課（エルデホール）
公演団体（制作・実施）	特定非営利活動法人 国際文化交流促進協会カルティベイト
企画協力・出演	座・何かようかい（主宰 上西沙耶）
原作／原案・演出	原作 貴山やめか／原案・演出 上西沙耶
演出・台本監修（総合演出）	水田晶博
出演	計 14 名（MC 含む）。役者 佐藤彩乃（令）、川添公二（おじいちゃん）、赤堀光希（枕返し）／ジャグラー 酒田慎吾／ダンサー 大倉多英、佐藤椋太、和田雄太郎／ダブルダッチ 大島稔史、浦田高幸、山本龍、北川紘佑／新体操 中村一葉／アクロバット 松元大和／MC 上西沙耶
舞台監督	藤井岳

事業名は、2026 年 1 月の決定通知「令和 8 年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（学校・地域社会連携型公演）の決定について（通知）」の表記に合わせた。

申請から実施までの流れ

作品との出会いから本番まで約 2 年半、町長の申請意向の確認からは約 1 年半。経緯の詳細は「5. 採択から実施までの経緯」に記す。



図 2　主な節目（申請から実施まで）

2　公演内容とねらい

本作は、妖怪の世界に迷い込んだ少年の物語に、日本の昔のあそびを使ったパフォーマンスを組み込んだ舞台作品である。物語の場面とあそびの場面が交互に進み、客席が声で参加する福笑いを中盤に置いている。

あらすじ

父とけんかをした少年・令は、亡くなった祖父・正二郎が描いた妖怪の絵本を読むうちに、妖怪の世界へ迷い込む。そこで祖父と再会し、枕返し、小豆洗い、のっぺらぼう、ろくろっ首、座敷童子たちと昔のあそびを楽しむ。祖父もまた、令の父と仲直りできないまま亡くなったことを悔やんでいた。令は祖父の「ごめん」を父に伝え、自分も謝ると約束する。天狗に送られて元の世界に戻った令は、父と仲直りし、覚えたあそびを友達に広げていく。



図３　作品の構成と時間配分（進行表 2026 年 9 月 9 日版による。当日の実時間とは前後する）

ねらい	内容
本物の舞台に触れる	学校の体育館では得られない、ホールの照明・音響・舞台転換を備えた舞台を体験する。
昔のあそびを見直す	お手玉、福笑い、縄跳び、皿回し、だるまさんがころんだ、手毬。身近なあそびが、技を磨くと舞台芸術になることを見せる。
参加して楽しむ	福笑いでは客席の声で顔を完成させる。前説の呼びかけから終演まで、手拍子や声援で舞台に加わる。
物語から受け取る	素直に謝ること、家族や友達と仲良くすること。「出来るか出来ないじゃない、やってみる事が大切」という台詞を、主人公が友達に伝える場面で終わる。
地域の文化資源とつなぐ	福崎町は民俗学者 柳田國男の生誕地で、妖怪を町の資源としている。子どもたちになじみのある題材から舞台芸術に入れる。

3　実施結果

小学校は 4 校合同で 1 回、中学校は学校ごとに 1 回ずつ、計 3 回上演した。第 1 公演と第 2 公演の間は、出演者の体力回復と舞台転換のために 60 分を確保した。

公演	時間	参加校	参加実数
第 1 公演	9:30〜10:30	福崎小学校・高岡小学校・田原小学校・八千種小学校（5・6 年生）	317 人
第 2 公演	11:30〜12:30	福崎西中学校	204 人
第 3 公演	14:00〜15:00	福崎東中学校	283 人
合計	3 公演	6 校	804 人

※参加実数は児童生徒数。別に教員 79 人（小学校 22 人・福崎西中 25 人・福崎東中 32 人）が参加し、参加者総数は 883 人。出典：福崎町の実施報告（2026 年 11 月 5 日）。

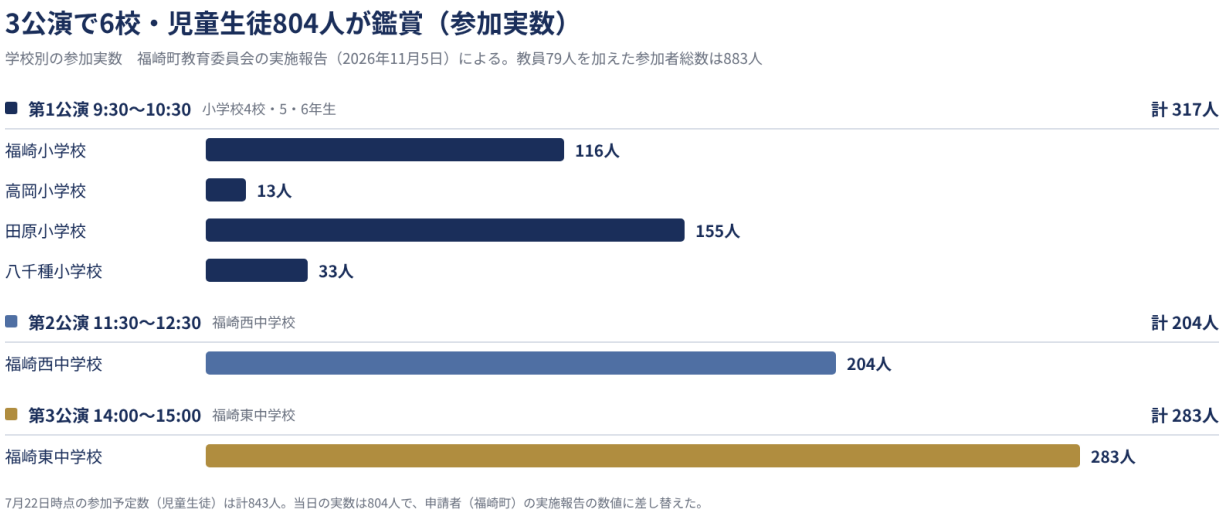


図 4　学校別の参加実数（児童生徒・福崎町教育委員会の実施報告による）



図 5　仕込み日と本番日の進行

4　実施体制

福崎町が申請者として複数校を取りまとめ、町教育委員会が学校と会場を、公演団体が制作と舞台を担当した。

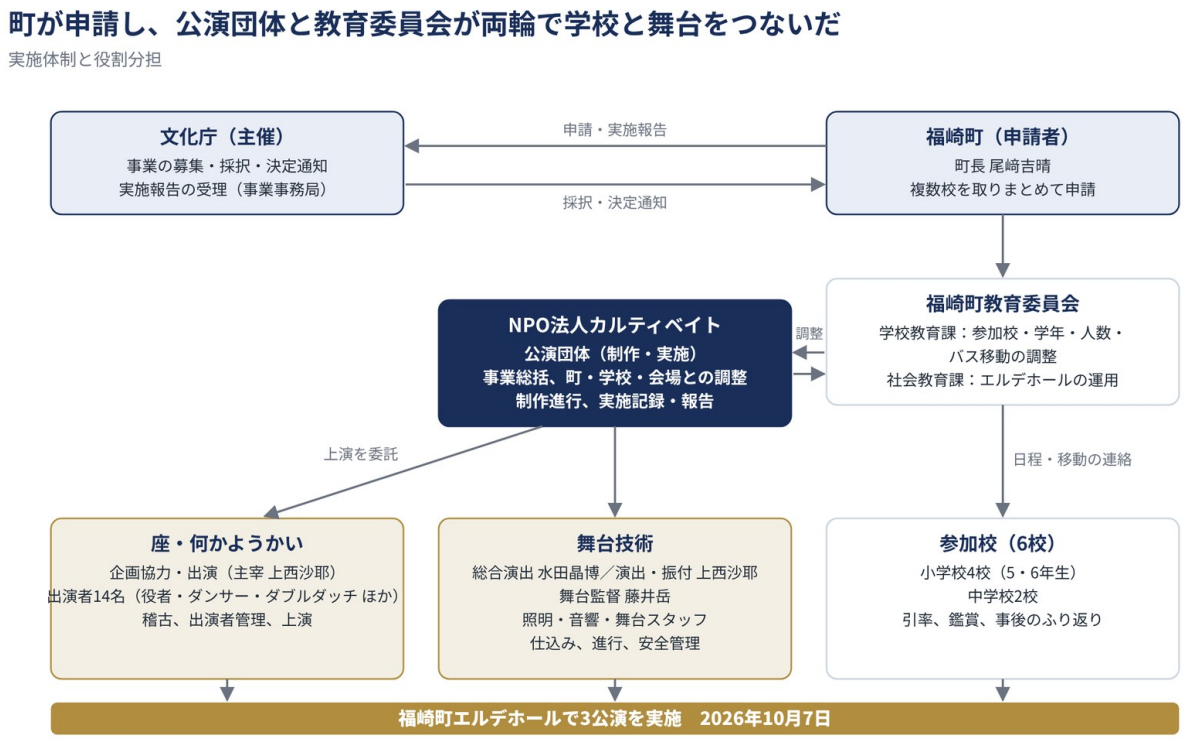


図 6　実施体制と役割分担

担当	主な役割
福崎町（申請者）	事業への申請、実施報告。町として実施を決定し、会場使用を支援
福崎町教育委員会 学校教育課	参加校・学年・人数の取りまとめ、バス移動の手配、当日の学校対応
福崎町教育委員会 社会教育課	エルデホールの使用調整、設備の運用
NPO 法人カルティベイト	事業総括、町・学校・会場との調整、制作進行、運営タイムテーブルの作成、実施記録
座・何かようかい	作品の企画・構成、稽古、出演
舞台技術スタッフ	総合演出（水田）、演出・振付（上西）、舞台監督（藤井）、照明、音響。仕込みから本番進行、安全管理まで

5　採択から実施までの経緯

本作は 2024 年 4 月、当法人が大阪市内の劇場で鑑賞し、学校巡回公演の演目として適合性を見いだしたことに始まる。福崎町が 2025 年 10 月 31 日に申請し、2026 年 1 月に採択、同年 10 月 7 日に実施した。町長の申請意向の確認から本番まで、約 1 年半をかけて準備した。

時期	内容	主体
2024 年 4 月	座・何かようかい関係者からの依頼を受け、当法人が大阪市内の劇場で「何かようかい」を鑑賞。伝承文化とアスリート系パフォーマンスを組み合わせた構成に、学校教育分野での巡回公演演目としての適合性・親和性を見いだす	カルティベイト、座・何かようかい
2025 年春	当法人が福崎町長を表敬訪問し、申請意向を確認	福崎町、カルティベイト
2025 年 6 月 5 日	町教育委員会（教育長、学校教育課長）と現地で打合せ。翌 6 日、エルデホールを 2026 年 10 月 6 日・7 日で仮予約	町教委、カルティベイト
2025 年 8 月 21 日	町内各校向けの参加校募集用チラシを町へ提供	カルティベイト
2025 年 9 月	令和 8 年度募集で区分名が「文化施設等活用公演」から「学校・地域社会連携型公演」に変更	文化庁
2025 年 10 月 31 日	福崎町が申請書を事業事務局へ提出	福崎町
2025 年 11 月 14 日	事務局の指摘を受け、申請書と見積書の修正版を提出	福崎町、カルティベイト
2026 年 1 月	採択決定。1 月 15 日に町から当法人へ決定通知の連絡	文化庁、事業事務局
2026 年 7 月 14 日	町役場とエルデホールで実施打合せと下見。制作会議で座組を確定	町教育委員会、カルティベイト、座・何かようかい
2026 年 7 月 22 日	学校向け運営タイムテーブルを確定し、町教委へ送付	カルティベイト
2026 年 8 月 26 日	ホール使用時間を確定（10 月 6 日 9:00〜21:00、10 月 7 日 8:30〜17:00）	社会教育課、カルティベイト
2026 年 9 月 30 日、10 月 4 日	稽古（10 月 4 日は舞台監督も参加した最終稽古）	座・何かようかい
2026 年 10 月 6 日	9:00 搬入・仕込み、16:00 場当たり、19:00 ゲネプロ	全制作スタッフ
2026 年 10 月 7 日	3 公演を実施。15:00 から撤収、17:00 までに退館	全関係者

福崎町では本事業に先立ち、2025 年 10 月 25 日の第 50 回福崎秋まつりで柳田國男生誕 150 年を記念した妖怪演劇サーカスが上演され、2026 年 5 月 3 日の町制 70 周年記念式典でも「YOKAI 音頭」が披露された。本公演は、町のこうした取組と連続している。

6　成果

参加６校のうち３校が、公演当日と翌日に学校ホームページで当日の様子を公開した。小学校の記事は「大興奮の１時間」、中学校の記事は「全校生徒が大興奮の１時間」と、同じ言葉で子どもたちの反応を記している。福崎東中学校の記事には生徒の感想２件が載り、「めっちゃ叫びました」という言葉で客席の熱が伝わってくる。

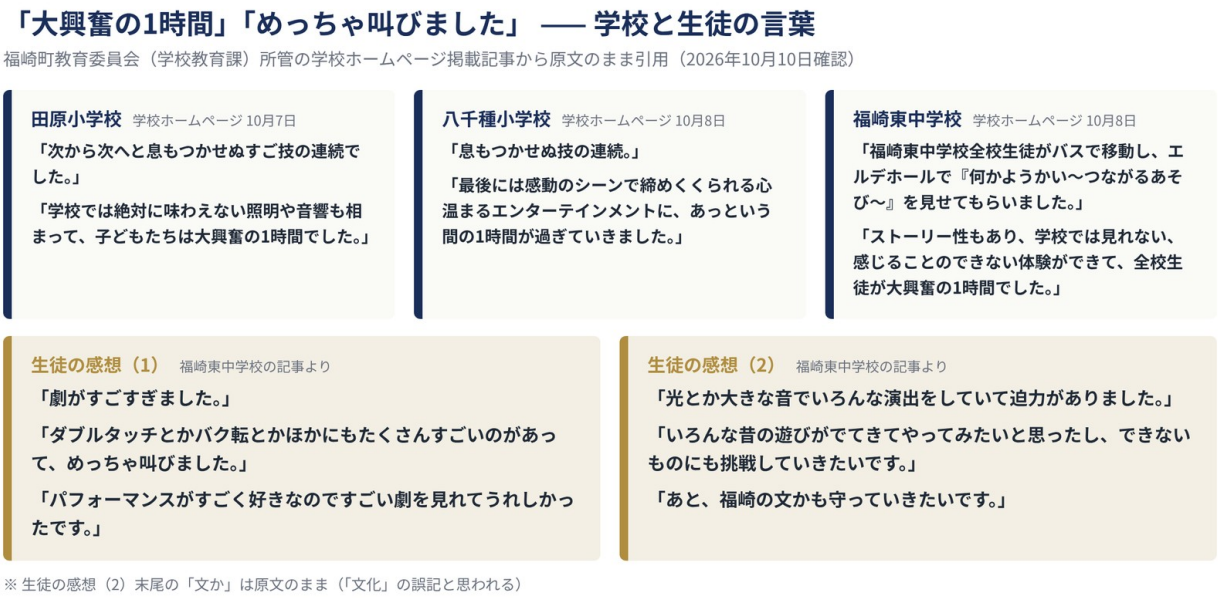


図７　学校と生徒の言葉（福崎町教育委員会所管の学校ホームページから原文引用）

子どもたちの反応を記事から読む

反応	記事の記述
声と身体で反応した	中学生の感想「ダブルタッチとかバク転とかほかにもたくさんすごいのがあって、めっちゃ叫びました」。小学校の記事は「大興奮」と記す
技に目を奪われた	田原小「次から次へと息もつかせぬすご技の連続」、八千種小「ダンス、ジャグリング、ダブルダッチ等の息もつかせぬ技の連続」。中学生は「妖怪それぞれの得意技が全部言葉にできないくらいすごくてかっこよかった」
ホールの演出を体感した	田原小「学校では絶対に味わえない照明や音響も相まって」、中学生「光とか大きな音でいろんな演出をしていて迫力がありました」
物語を受け取った	八千種小「最後には感動のシーンで締めくくられる心温まるエンターテインメント」、東中「ストーリー性もあり、学校では見れない、感じることのできない体験」
あそびへの意欲が生まれた	中学生「いろんな昔の遊びがでてきてやってみたいと思ったし、できないものにも挑戦していきたいです」。作中の台詞「出来るか出来ないじゃない、やってみる事が大切」と重なる
地域の文化に目が向いた	中学生「福崎の文化も守っていきたいです」（原文「文か」）。妖怪という町の題材が、鑑賞を地域への関心につなげた

公開記事の要旨と出典

発信元	公開日	記載の要旨
福崎町立田原小学校	2026 年 10 月 7 日	「5・6 年生：芸術鑑賞〜何かようかい〜」。町内 4 小学校の 5・6 年生が鑑賞。小豆洗いのお手玉、座敷童のまりとフラフープ、のっぺらぼうの福笑い、ろくろ首のダブルダッチ、河童の皿回し、天狗のダンスを紹介。写真 8 枚
福崎町立八千種小学校	2026 年 10 月 8 日	「10 月の教育活動」に「5・6 年 文化芸術体験」として掲載。写真 6 枚のキャプションにオープニングのダンス、小豆洗いのジャグリング、ろくろ首のダブルダッチ、のっぺらぼうの福笑い、妖怪たちの「だるまさんがころんだ」、天狗が登場し感動のフィナーレへ
福崎町立福崎東中学校	2026 年 10 月 8 日	「令和 8 年度 芸術鑑賞会 〜何かようかい〜」。全校生徒がバスで移動して鑑賞。小豆洗い、座敷童、のっぺらぼう、ろくろ首、河童の場面を列挙。生徒の感想 2 件、写真 3 枚

福崎小学校、高岡小学校、福崎西中学校のホームページには、10 月 10 日時点で本公演の記事は掲載されていない。児童生徒・教員のアンケートは回収後に集計し、追補する。

出演者の視点から

出演者の一人は公演翌日の 10 月 8 日、Instagram に当日の様子を投稿した。中学生は思春期で芸術鑑賞会を冷めた目で見るのではないかと案じていたが、始まると全員が集中して見入り、客席からの声もよく出て、オープニングのダンスが終わると大歓声が起きたと記している。学校側の記事と出演者側の発信が、客席の反応について同じ方向を向いている。

出演者の投稿から（Instagram、2026 年 10 月 8 日公開）

「始まったら全員食い入る様に見てくれて、声出しもバッチリで感動しました」

「オープニングのダンスなんか終わったあと大歓声で、さながらアーティストの LIVE の様でした」

投稿には #文化庁 #学校地域連携型公演 #福崎町 のハッシュタグが付され、「NPO 法人カルティベイトさん、文化庁さんのお陰で学校地域連携型公演が開催できました」と記されている。引用は原文のまま（一部抜粋）。



図 8　本公演の 4 つの成果

7　実施の様子（写真記録）

当日の舞台と客席の様子を、当法人の記録写真から抜粋した。第 1 公演（小学校 4 校）は 9 時 47 分から 10 時 26 分にかけての撮影で、進行表の場面と時刻が一致する。

会場と開演前



写真 01 ロビーの会場案内表示

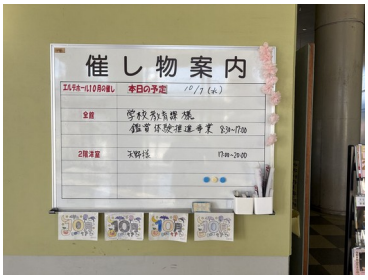


写真 02 ホールの催し物案内「学校教育課様 鑑賞体験推進事業 8:30〜17:00」



写真 03 本番当日 8 時 36 分、仕込みを終えた舞台



写真 04 開演前、MC の呼びかけに応える客席



写真 05 満席となったエルデホールの客席

舞台の場面



写真 06 小豆洗いのお手玉。令と祖父・正二郎、枕返しが見守る



写真 07 ろくろっ首たちと大縄跳び



写真 08 ろくろっ首のダブルダッチ



写真 09 ろくろっ首のダブルダッチ。舞台と客席を一望



写真 10 天狗のアクロバット



写真 11 終盤、妖怪たち全員のダンス

フィナーレ



写真 12 フィナーレ。銀テープが舞うなか、出演者と客席が一体に

児童生徒の顔が判別できる写真は掲載していない。写真の使用範囲は福崎町教育委員会に確認のうえ確定する。

8　課題と今後の展開

- **公演間隔の確保：**当初 30 分としていた第 1・第 2 公演の間隔を、7 月の段階で 60 分に改めた。複数回公演では、計画の初期から 60 分以上の間隔を前提とする。
- **学校の移動時間：**第 2 公演は生徒がそろい次第の開演とした。バス移動を伴う合同鑑賞では、開演時刻に幅を持たせる運用が有効である。
- **成果の把握：**児童生徒の声を定量的に示すため、アンケートと感想文の回収・集計を町教育委員会と進める。
- **今後の展開：**本作は令和 9 年度の学校巡回公演に応募済みである。福崎町での実績を踏まえ、より多くの地域・学校での上演につなげたい。

9　出典・照合資料

- 学校地域連携型公演の概要（事業公式サイト）　上位事業名、旧称、申請者の要件、実施までの流れ
- 田原小学校「5・6 年生：芸術鑑賞〜何かようかい〜」　2026 年 10 月 7 日公開
- 八千種小学校「令和 8 年度 10 月の教育活動」　2026 年 10 月 8 日公開
- 福崎東中学校「令和 8 年度 芸術鑑賞会 〜何かようかい〜」　2026 年 10 月 8 日公開（生徒の感想 2 件を掲載）。同校の 10 月行事予定表でも確認
- 上記 3 記事は福崎町教育委員会（学校教育課）所管の町立学校ホームページ（town.fukusaki.hyogo.jp/school/）に掲載。引用は原文のまま、2026 年 10 月 10 日に確認
- 出演者の Instagram 投稿（@amazondesu）　2026 年 10 月 8 日公開、10 月 12 日確認
- 福崎町 町制 70 周年記念式典　2026 年 5 月 3 日、エルデホール
- 当法人資料：決定通知（2026 年 1 月）、上演台本、進行表・香盤表（9 月 9 日版）、運営タイムテーブル（7 月 22 日版）、記録写真、福崎町教育委員会との往復メール